

## RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018 Masters Historic Formula Oneレース 出場マシン第4弾 決定のご案内

2018年11月17日（土）・18日（日）に鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）で「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018」を開催いたします。

本イベント内で行われる注目イベント「Masters Historic Formula One」公式レースの、出場マシン第4弾として、1980年～1982年までのF1マシン6台が決定いたしました。

これまで発表したマシンも含め、合計21台のアジア初となるレース、そしてヒストリックF1マシンならではの、“サウンド”にもご期待ください。

### Masters Historic Formula Oneレース 出場マシン Vol.4

#### 1980 McLaren M29C [Head Class]

<解説>

1979年の開幕とともに初のグランドエフェクトカーM28を投入するも失敗に終わったマクラーレンが、第9戦イギリスGPで投入した新型車。様々な改良を加えられながら、エースのジョン・ワトソンをはじめ、パトリック・タンベイ、アラン・プロスト、アンドレア・デ・チェザリスらによって81年の第5戦まで使用されるも、決勝最高位は3度の4位（いずれもワトソンが記録）にとどまった。ウォーレン・ブルグスが所有するM29は、モノコックやサスペンションの剛性が強化され80年の西アメリカGPから投入された改良版のM29Cである。



#### 1980 Williams FW07B[Head Class]

<解説>

80年に5勝を挙げたアラン・ジョーンズがワールドチャンピオンに輝き、ウィリアムズとしても初のコンストラクターズを獲得したFW07Bは、ロータス79を徹底的に研究し開発された79年型FW07のモノコックを強化、サイドウイングを延長するなどの改良を施したモデルである。マスターズUSAシリーズで活躍するチャールズ・ニアバーグのFW07/06は、FW07Bとして2番目に作られたシャシーで、主にアラン・ジョーンズのTカーとなった個体。実戦ではブラジルGPと西アメリカGPで使われ、ブラジルでは3位入賞を果たしている。



#### 1982 Arrows A5 [Head Class]

<解説>

A4の不振に悩むアロウズ・チームが、来たるべきターボ時代を見据え82年後半に製作したテストカー。設計はA4に引き続きデイブ・ウォスだが、その中身はウィリアムズFW08のコピーといえるもので、フロントサスペンションだけが従来のロッカーアーム式とされていた。1台だけが製作され、第14戦スイスGPでマルク・スレールが乗りデビュー。イタリアGPでマウロ・バルディが、ラスベガスGPではスレールがドライブしたが最高位は7位に終わった。ちなみに83年に登場したA6は、A5をフラットボトム規定に合わせて改良したものだ。



## 1982 Lotus 91 (No.2) [Head Class]

<解説> ロータス最後のグラウンドエフェクトカーとなった91は、82年のオーストリアGPでエリオ・デ・アンジェリスが2位のケケ・ロズベルグを0.05秒差で破り、生前のコーリン・チャップマンに最後のF1優勝をプレゼントしたマシンでもある。モノコックは前年の87、88、83年の92、93T、94Tと基本的に共通のカーボンファイバー製。エンジンはショートストロークのコスワースDFVが搭載された。久保田克昭の所有する91/7は、ナイジェル・マンセルのレースカーだった個体で、ブラジルGPで3位、モナコGPで4位に入賞している。



## 1982 Lotus 91 (No.12) [Head Class]

<解説> マスターズ・ヒストリック・フォーミュラ・ワンの常連でクラシック・チーム・ロータスのメンバーでもあるグレゴリー・ソートンの91は、82年のイギリスGPに合わせて87から91に改修されたシャシーナンバー91/5で、プルロッド式のフロントサスペンションを持つのが特徴。シーズン後半のスペアカーとして用意され、実戦で使われることはなかったものの、マスターズ・シリーズではバルセロナで行われた2017年の開幕戦や、F1カナダGPのサポートレースのレース1で総合優勝を飾るなど、常にトップ争いを展開する実力の持ち主である。



## 1982 March 821 [Head Class]

<解説> エイドリアン・レイナードが82年のRAMチーム用に設計した初のF1マシン。81年にレイナードやエイドリアン・ニューイが改良を施した811Bの進化型というべきもので、ロスマンズ・タバコのメインスポンサーを受けてヨッハン・マストとラウル・ボゼールがドライブした。しかしながらマシンの実力不足に加え、多くのアクシデントに見舞われ低迷。シーズン途中でマスもロスマンズも離脱してしまった。クリス・ファレルの821/RM11は、イギリスGPまでマスが、後半はルパート・キーガンがドライブした個体で、最高位はイギリスでの10位。



### RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINEとは

1962年に日本初の本格的な国際レーシングコースとして開場した鈴鹿サーキットは、2012年に50周年を迎え、次の50年に向け新たなスタートをきりました。鈴鹿サーキットは、この歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるために、モータースポーツが持つ貴重な歴史にスポットライトを当てた本ヒストリックイベントを、2015年より開催しています。

なお、本イベントの前売チケット（大人1日券：2,500円、2日券：3,500円）は、9月23日（日・祝）より販売いたします。

### Masters Historic Formula Oneとは

3リッターエンジンを搭載し、1966年から1985年に製造されたF1マシンを使用するMasters Historic Formula Oneは、グラウンドエフェクトの有無、年式などによって四つのクラスに分けられ、ヨーロッパ内でシリーズ戦が行われています。2017年の「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2017」では、同時に11台のヒストリックF1マシンがデモンストレーションを行いました。

## Masters Historic Formula Oneレース 出場マシン一覧 全21台 (9月14日時点)

**[Stewart Class]** ジャッキー・スチュワートクラス：1972年末までに製造されたF1マシン



1971 Tyrrell 002



1972 March 721G

**[Fittipaldi Class]** エマーソン・フィッティパルディクラス：1973年以降に製造されたノンランドエフェクトカーのF1



1974 Surtees TS16



1974 March 741



1974 Lotus 76



1976 Lotus 77



1976 Penske PC4



1974 Lola T370



1976 March 761



1977 LEC CRP1

**[Head Class]** パトリック・ヘッドクラス：1973年以降に製造されたランドエフェクトカーのF1



1977 Lotus 78



1979 Ensign MN179



1979 Ferrari 312 T4



1979 Shadow DN9



1980 Brabham BT49



1980 McLaren M29C



1980 Williams FW07B



1982 Arrows A5



1982 Lotus 91 (No.2)



1982 Lotus 91 (No.12)



1982 March 821

※1973 Shadow DN1と1974 Hesketh 308Bは出走キャンセルとなりました。